

昭和大学附属烏山病院だより

# あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 岩波 明  
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭  
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11  
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第 1 4 8 号

〔2019年11月30日発行〕

## ピアサポーターの活動

精神医学教室 講師 常岡俊昭

烏山病院では、各患者さんの入院生活・退院後の生活・困ったときの再入院の相談などがスムーズに進むように地域連携にも力を入れています。2019年11月14日烏山地区センターで行われた地区連携医事業に常岡・町田看護師・ピアサポーターの中村さんが参加しました。

地区連携医事業とは「医療と介護を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、医療と介護の関係機関の連携体制を構築する必要があります。その実現のために各自治体が在宅医療・介護連携推進事業を行っています。世田谷区ではこの取組の一環として、世田谷区医師会と協力し、各地域包括支援センターに地区連携医を配置し、在宅医療に関わる研修や地域住民への啓発活動、支援のためのネットワーク作りなどを推進する事業」になります。

ここで、医師・看護師・当事者の立場で講演させて頂いたのですが、当事者の中村さんの講演を聞くためにデイケアの仲間が20人近く応援に駆け付け、急遽机といすを出して頂きました。仲間の声援の中、中村さんの経験談は多くの聞いている人の心を打ちました。「やっぱり当事者の語りほど心に届くものはないな〜」と改めて感じました。以下は企画して下さった烏山あんしんすこやかセンターの秋友さんからの感想です。

「中村さんがピアサポーターになるまでのいきさつをご本人の言葉で話し、ときには主治医と患者で交わされる会話や入院したときの出来事をそのとき感じたままに語って下さいました。これまで、ピアサポーターの活動を聞く機会がほとんどなかったこともあり、参加者の皆さんも中村さんの話に耳を傾けていました。先生とピアサポーターのかけあいも笑いを誘っていました。最後におしゃべりタイムもあり、顔の見える関係づくりができたのではないかと、終わってほっとしております。このようにつながりがもっと広がるといいな、と思います」

これからも中村さんのようなピアサポーターが地域と病院を繋ぐ架け橋になってくれればよいなど期待しています。今後もピアサポーターの活躍をご期待ください。

# 2019 年度東京都精神科医療地域連携事業・ 公開講演会で講演をして

北部病院メンタルケアセンター 教授 稲本淳子

2019年11月2日（土）15時30分から17時30分に烏山病院入院棟1階食堂ホールにて2019年東京都精神科医療連携事業・講演会で「当事者に対する行政・福祉の支援～現状と課題」という題で講演しました。大きな題であったため主に就労支援と社会復帰に関することとお話することとしました。まず、全体的な当事者に対する行政・福祉の支援～現状と課題（特に就労について）お話し、次に統合失調症の社会復帰と就労支援について、最後に発達障害の就労支援についてお話ししました。

まず、①行政による就労支援の現状と課題としては障害者雇用促進法により障害者の法定雇用率が引き上げられたが、中央官庁及び地方自治体で水増し雇用をされていた。今後監視が必要である。障害者雇用における様々な政策がなされており、精神障害者の就労は10年間で一番伸びている。しかし就労継続支援事業（A型、B型共に）の賃金が低い。そのため工賃倍増5か年計画がある。また就労移行支援事業からの一般就労の割合は25%程度あるが、就労継続支援事業からの一般就労への移行率は低い。移行率が低い事業所もあるので選別が必要である。就労には行政・福祉の支援と共に医療機関、地域等が密接に連携することが大切である。

次に②統合失調症の社会復帰と就労支援においては、まず重要なことは再燃、再発を予防し、薬物療法及びリハビリテーションにより認知機能を改善させることが重要である。また就労支援においては従来型の就労支援だけではなく、ジョブコーチ等の支援が始まり、就労支援が多様化してきている。最後に③発達障害の関わり方と就労支援においては法律の整備が行われており、様々な政策がとられている。発達障害は優れた能力と特徴を持っているため、特性を活かしたプログラム及び就労支援と周りの適切な理解と援助が必要である。また就労と生活支援の包括的な支援が必要である。



以上のように講演しました。

講演会の後、以前私が入院や外来でみていた患者さんや患者さんの家族が話しかけに来てくださり、とても懐かしい時間を過ごしました。

このような貴重な機会を与えてくださった岩波院長先生を初めとする烏山病院の職員の皆様に感謝申し上げます。

# 発達障害の居場所のあり方について

看護主査 大岡由里子

「おはようございます。」元気な声で木曜日の朝、サーズデイのプログラムが始まります。サーズデイとはASD（自閉症スペクトラム症）を持ち、大集団を好まないコミュニケーションを苦手とする方のグループです。平成24年度から開始したグループで、当初は6名からスタートしたサーズデイも現在登録人数は17名となりました。看護師の福島と共に「学習のめあて」にこだわらず予定通りに進行することに焦らず、失敗経験も練習、訓練の場と捉え再度チャレンジできる場を提供してきました。また、人生初めての経験をみんなで一緒に体験をしてスタッフ自身も楽しむことを心がけています。これまで毎月の誕生会や初めてのビュッフェ、ラーメン屋を経験してきました。サーズデイのメンバーAさんは、開始時、発語がなく自分の感情や感想を伝える事ができませんでした。現在では、自分の感情を少しずつ言語化できるようになりました。さらに、メンバー全員に言える事ですが、開始時より表情が良くなり笑顔が見られるようになりました。サーズデイのメンバーの成長を何より喜びと感じる日々です。

2019年11月2日公開講座にて「発達障害の居場所のあり方」をテーマとして、サーズデイについて発表させて頂き、本当に感謝しています。



## 和の心

デイケア通所者 SR

最近ニュースを見ると色々な話題が目に見えます。ラグビー日本代表、サッカー、野球、台風の被害など様々な話題が放送されますが、ある共通点があります。和の心です。和の心とは様々な個性が集まって1つになる日本人特有の気質を指します。スポーツや災害対策でも、日本人が一致団結して1つになる和の心は大変強固な物となっております。心被打たれます。

ASDグループやデイケアにおいても一致団結・和の心を感じる事があります。また、プロジェクトKやデイケア向上委員会などが主催したイベントが盛り上がる時に感じています。クイズ大会、夏祭り、お出かけイベントなど今年催したイベントだけでもみんなの一体感を私は感じました。様々な個性を持っている人々が集まっても、一体感をもち、交流できること、その凄さこそが、和の心の表れなのではないでしょうか。デイケアの皆さんも個人の事情は様々ですが、みんなで1つになれば大きな力となるので皆さんも協力して頑張ってください。

# 看護部災害訓練プロジェクト

看護師長 沢田祐子

昨年度より「看護部災害訓練プロジェクト」という火災や地震などの災害に向けて、尊い患者や職員の生命を守り、安全・安心を提供できるよう職員による訓練活動を行っております。昨年度には成城消防署より訓練活動を評価していただき、おかげさまで表彰状を頂くことができ、プロジェクトメンバーも活動していてとてもやる気に繋がっています。

院内での防災訓練レベルを「実践的に」目標に、よりリアルな訓練を目指して活動しております。各病棟や外来で前期は火災訓練を行い、後期は地震訓練を企画しております。また、災害時に部署から緊急連絡網で職員を招集する訓練も行って見たところ、課題が見えてより一層早く確実に連絡が繋がる方法を検討する機会となりました。

今年度、当院は災害時に広域災害医療情報システム（EMIS）に登録して厚労省に施設の被災情報を伝えることができるようになりました。同時に大規模災害時に東京都災害派遣精神医療チーム（DPAT）として活動ができる職員を登録しております。

今後も安全・安心できる災害訓練を重ねていきます。

## 総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～土曜日・8時30分～17時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

◀10月▶ 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,127(8,175) 6,369(6,119)

◇一日平均患者数 262.2(272.5) 254.8(266.0)

◆診療実日数 30(31) 25(22)

## 【編集後記】

先月10月は新天皇陛下の即位に伴う即位礼正殿の儀、また消費税率の増加と変化の多い月でした。新元号の公布から半年が経過しましたが、新しい元号には慣れましたか？今年も残すところ、1ヶ月です。2020年に向けてやり残したことがないように、気持ち良く新年を迎えられるように今から準備しましょう！体調にも気をつけ、健康に年を越せるように今から努めましょう。外から帰ったら手洗い・うがい忘れないようにしましょう！！

広報委員 佐藤

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちして

おります。連絡先は [k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp)

